

北里大学病院精神科専門医研修プログラム

(専門研修プログラム名：北里大学病院精神科専門医研修プログラム)

専門研修プログラム統括責任者：

宮岡 等

北里大学医学部精神科学教授

専門研修プログラム副統括責任者：

澤山 透

北里大学医学部精神科学講師

専門研修プログラム担当者（医局長）：

大石 智

北里大学医学部精神科学講師

住所：〒252-0380 神奈川県相模原市南区麻溝台2丁目1番1号

電話：042-748-9111（内線2716）

FAX：042-765-3570

E-mail：k-psy@kitasato-u.ac.jp

専攻医の募集人数：10名

- 応募方法：公募

履歴書をWordまたはPDFの形式にて、E-mailにて提出

k-psy@kitasato-u.ac.jp宛に添付ファイル形式で送信。その際の件名は、「専門医研修プログラム応募」とする

- 選考方法：面接

I. 専門研修の理念と使命

(1) 精神科専門研修の理念（全プログラム共通）

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

(2) 精神科専門医研修の使命（全プログラム共通）

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

(3) 北里大学病院精神科専門医研修プログラムの概要

これまで本研修プログラムは、北里大学東病院にて行われていたが、2020年4月、北里大学東病院は北里大学病院へ移転・統合することが決まっており、現在、北里大学病院敷地内に精神科病棟を含む新棟を建設中である。それに伴い、本研修プログラムも2020年4月以降は、「北里大学東病院精神科専門医研修プログラム」から「北里大学病院精神科専門医研修プログラム」と名称を変更することとなった。

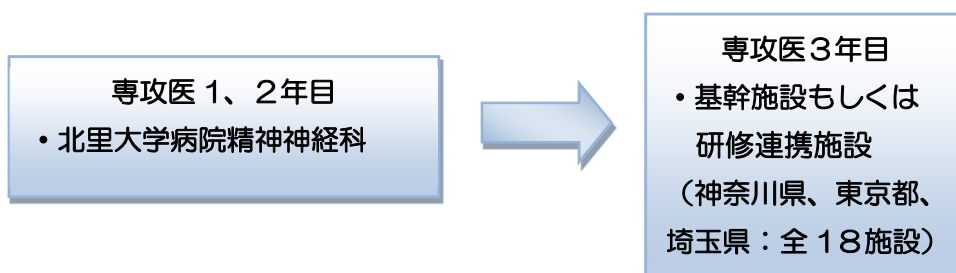
本研修プログラムは、どのような精神疾患のどのような時期にも対応できる精神科医療を実践できる精神科医を育成することを目標としている。措置入院などを含む精神疾患の急性期から、リハビリテーションを行う慢性期の治療も学べるようなプログラムとなっている。また、薬物療法のみならず、面接やコミュニケーション技術、生活習慣への助言、社会資源の活用などの心理社会的治療の研鑽にも力を入れている。また指導スタッフは、1つの領域に偏ることなく、精神科臨床における重要な領域を網羅するような各方面の専門家が加わるように構成されている。

専攻医1、2年目は、本研修プログラムの基幹施設である北里大学病院精神神経科で研修し、精神科医としての基本的な知識を身につける。専攻医は入院患者の受持医となり、指導医からのマンツーマンでの指導を受けながら、的確な診断と適切な治療の過程を学ぶとともに、看護師、心理士、ソーシャルワーカー、作業療法士、薬剤師などとチーム医療を実践する。専攻医2年目からは指導医の助言を受けながら、主治医として外来診療を担当する。また、他科に入院・通院中に精神症状ないし心理的問題

が出現した患者への対応を行うリエゾン・コンサルテーションについて学ぶ。

専攻医 3 年目には、基幹施設もしくは専門研修連携施設である公的・民間精神科病院で研修を行う。指導医のスーパーバイズを受けながら、単独で入院患者の主治医となり、責任を持った医療を遂行する能力を学ぶ。また、地域連携、地域包括ケアの実際を主治医として体験することにより、地域医療の実際を学ぶとともに、地域における精神医療の役割を学習する。公的・民間精神科病院以外の研修としては、北里研究所病院（東京都港区）、北里大学メディカルセンター（埼玉県北本市）などの北里大学関連の病院でリエゾン・コンサルテーションを学んだり、横浜市こころの健康相談センターや相模原市精神保健福祉センターなどの精神保健機関で研修するという選択肢もある（本研修プログラムの専門研修連携施設の概要については、資料「北里大学病院精神科専門医研修プログラム 研修連携施設概要」を参照）。

また、全ての年次において、日本精神神経学会をはじめとする諸学会の講習などへの参加が奨励されるとともに、学会発表や論文投稿などの機会が与えられる。



以上が、基本的な研修プログラムの流れとなるが、3年間のローテーションや期間については、専攻医の希望により、児童精神医学、老年精神医学、依存・嗜癖などの各専門領域をより多く学べるように研修計画を立てることも可能である。また、専攻医の経済的事情、結婚や出産・育児などに応じて柔軟に対応することも可能である。

Ⅱ. 専門研修施設群と研修プログラム

(1) プログラム全体の指導医数・症例数

- ・プログラム全体の指導医数：91 人
- ・1 年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0：症状性を含む器質性精神障害	3034	521
F1：精神作用物質使用による精神および行動の障害	2895	1261
F2：統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	11332	2859
F3：気分（感情）障害	8055	1407
F4：神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	6870	603
F5：生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	382	58
F6：成人のパーソナリティおよび行動の障害	441	95
F7：精神遅滞（知的障害）	756	103
F8：心理的発達の障害	918	127
F9：小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	633	34

(2) 連携施設名と各施設の特徴

A. 研修基幹施設*

<*注釈> 上述したように 2020 年 4 月に北里大学東病院精神神経科は、北里大学病院に移転・統合するが、2020 年 3 月末まで本研修プログラムは北里大学東病院で行われるため、下記の基幹施設の情報については「北里大学東病院」のものを記載する。なお、北里大学病院で現在建設中の精神科病棟は、これまで通り、精神科救急入院料病棟（いわゆるスーパー救急病棟）で、全個室の 42 床（隔離室 7 床含む）の病床数となる予定である。また外来診療については、ほぼそのままの規模で移転する予定となっている。

- 施設名：北里大学東病院
- 施設形態：大学病院
- 院長名：宮岡 等
- プログラム統括責任者氏名：宮岡 等
- プログラム副統括責任者氏名：澤山 透
- 指導責任者氏名：宮岡 等
- 指導医人数：11人
- 精神科病床数：88床
- 疾患別入院数・外来数（年間）：

疾患	外来患者数 （年間）	入院患者数 （年間）
F0：症状性を含む器質性精神障害	614	18
F1：精神作用物質使用による精神および行動の障害	288	17
F2：統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	1997	135
F3：気分（感情）障害	2210	114
F4：神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	2165	59
F5：生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	122	13
F6：成人のパーソナリティおよび行動の障害	47	11
F7：精神遅滞（知的障害）	71	10
F8：心理的発達の障害	79	1
F9：小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	80	0

- 施設としての特徴（扱う疾患の特徴など）

本研修プログラムの基幹施設である北里大学東病院精神神経科は、閉鎖病棟、隔離室、m-ECT ユニット、ハイケア・ユニットなどを有し、統合失調症、気分障害、神経症、認知症、症状・器質精神病、てんかん、アルコール・薬物依存など、さまざま精神疾患の治療にあたっている。また東病院は、神奈川県精神疾患救急医療システムの基幹病院として重要な役割を担っており、措置入院などの必要な患者の受け入れを長年にわたり積極的に行っている。そのため、大学病院内の経験豊富なスタッフのもとで、精神保健指定医取得に必要な症例に関する研修を行うことが

できる。さらに、急性期治療だけではなく、作業療法などのリハビリテーションやアウトリーチチームによる在宅支援も行っており、多種多様な精神疾患のどのような時期にも対応できる精神科医療の実践を目指している。また、外来診療部門においても、1日平均300人前後と多くの患者が通院しているが、大学病院としての専門性と高度な医療を提供すべく、各種専門外来の充実も図っており、てんかん、認知症、依存症（アルコール、薬物、ギャンブルなど）、睡眠障害、口腔心身症、成人の発達障害など多種にわたる専門外来を設置している。また、平成24年度からは、相模原市の委託を受けて、相模原市認知症疾患医療センターの業務も行っている。

図1に東病院研修中の専攻医週間スケジュールを示す。専攻医は受持医として、入院患者を担当するが、日々、指導医からのマンツーマンでの指導を受けるとともに、毎週、主治医（病棟長、副病棟長）を交え、チャートカンファレンスが行われ、その中で適切な診断や治療について学ぶ。また、月に2回ほど行われる症例検討会には、患者さんにも参加していただき、教授らが行う実際の面接を見ながら、医師としての姿勢や面接技術を学ぶことができる。面接終了後には、専攻医も含めた各医師それぞれが、鑑別診断や今後の治療方針を討論し、症例に対する理解を深めるとともに、薬物療法や精神療法的アプローチなどについて学習、習得をはかる。

図 1. 東病院研修中の専攻医週間スケジュール

曜日	時間	業務内容 (N1 病棟/N2 病棟)	その他
月 (Mon.)	8:45 9:15	申し送り 隔離室回診 N1 病棟回診(拘束回診を含む) / 病棟業務 New Case・行動制限最小化委員会 / 病棟業務	
	12:45 13:00 頃 15:30 16:30	連絡会 チャートカンファレンス / 退院支援カンファレンス 多職種カンファレンス / 病棟業務 申し送り	
火(Tue.)	8:45 9:15	申し送り 隔離室回診 拘束回診 / 隔離室で見守り 病棟業務	
	16:30	申し送り	
水 (Wed.)	火曜と同じ	火曜と同じ	※電気けいれん療法
木 (Thu.)	8:45 9:15	申し送り 隔離室および拘束回診 / N2 病棟回診 病棟業務 / New Case・行動制限最小化委員会	
	13:00 頃 15:30 16:30	退院支援カンファレンス / チャートカンファレンス 病棟業務 / 多職種カンファレンス 申し送り 連絡会 ケースカンファレンス or 研究会	
金(Fri.)	火曜と同じ	火曜と同じ	※電気けいれん療法
土(Sat.) 第 1,3,5 週 (第 2,4 週 は休 み)	8:45 9:15 11:30	申し送り 隔離室回診 拘束回診 / 隔離室でサポート 病棟業務 申し送り	

その他、月 2 回の定例の研究会とは別に、各研究グループによる研究会や勉強会（老年精神医学、産業精神医学、成人の発達障害、児童精神医学、依存症、動機づけ面接、電気けいれん療法、精神科クリニカルパスなど）も開催されている。東病院で行われる症例検討会を含めたこれらの研究会には、連携施設で研修している際も参加することができる。また、専攻医 1 年目を対象としたクルズも週 1 回行われ、幅広い知識を習得する機会を持つことができる（表 1）。

表1 研修医クルーズの主なテーマ

コミュニケーション・トレーニング
脳波所見の見方と利用
精神症状評価と診断
摂食障害の見方
睡眠障害と精神疾患
精神科薬物療法の基本
精神医学と法律（精神保健福祉法、医療観察法、精神鑑定など）
うつ病の動向
頭部画像検査
老年期精神障害と老年期の考え方
睡眠に関する検査と治療
リエゾン精神医学の考え方とサイコオンコロジー
アルコール依存と関連精神障害
地域精神保健活動について
小児期の精神疾患と発達精神医学概論
精神疾患患者の身体合併症医療の現状
身体救急における精神医学
薬物中毒（過量服薬）の考え方と対応
行政との関わり
医療安全と精神科救急
精神科医療における心理士の役割
利用すべき社会資源
産業精神医学の考え方
力動的療法療法の考え方
遺伝カウンセリングの実際
精神科医に求められる専門性の高くない精神療法の知識

また表2に年間スケジュールを示す。

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	東京精神医学会学術集会参加
8月	
9月	神奈川県心身医学会学術集会参加

10月	
11月	東京精神医学会学術集会参加
12月	北里精神医学懇話会参加
1月	
2月	
3月	神奈川県心身医学会学術集会参加 東京精神医学会学術集会参加 総括的評価 研修プログラム評価報告書の作成

B. 研修連携施設（全 18 施設）

資料「北里大学病院精神科専門医研修プログラム 研修連携施設概要」を参照。

(3) 研修プログラム

A. 年次到達目標

専攻医は、精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。

- ① 患者及び家族との面談
- ② 精神疾患の概念と病態の理解
- ③ 診断と治療計画
- ④ 補助検査法（CT、MRI、脳波、脳脊髄液検査、心理検査など）
- ⑤ 薬物療法・身体療法（修正型電気けいれん療法）
- ⑥ 精神療法
- ⑦ 心理社会的療法、精神科リハビリテーション、地域精神医療・保健・福祉
- ⑧ 精神科救急
- ⑨ リエゾン・コンサルテーション精神医学
- ⑩ 法と精神医学（医療法、精神保健福祉法、心神喪失者等医療観察法、成年後見制度など）
- ⑪ 医の倫理（人権の尊重とインフォームド・コンセント）
- ⑫ 安全管理・感染対策

各年次の到達目標は以下の通りである。

・1年目：研修基幹施設である北里大学病院で、指導医と一緒に統合失調症、気分障害、器質性精神障害などの入院患者を受け持ち、良好な治療関係を築くための面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学習する。とくに面接によって情報を抽出し診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。入院患者を指導医と共に受け持つことによって、行動制限の手続きなど、基本的な法律の知識を学習する。また、症例検討会などで自分の患者について発表・討論する。

・2年目：引き続き基幹施設である北里大学病院で、指導医の指導を受けつつ、より自律的に面接の仕方を深め、診断と治療計画策定の能力を充実させ、薬物療法の技法を向上させる。専門的な精神療法として認知行動療法と精神力動的な精神療法の基本的考え方と技法を学ぶ。精神科救急に従事して対応の仕方を学ぶ。緊急入院の症例や措置入院患者の診察に立ち会うことで、精神医療に必要な法律の知識について学ぶ。神経症性障害、種々の依存症患者、児童・思春期精神障害およびパーソナリティ障害の診断・治療を経験する。院内研究会や学会で発表の機会をもつ。他科に入院・通院中に精神症状ないし心理的問題が出現した患者への対応を行うリエゾン・コンサルテーションについても経験する。また指導医の助言を受けながら、主治医として外来診療を担当する。

・3年目：基幹施設もしくは専門研修連携施設である公的・民間精神科病院で、指導医のスーパーバイズを受けながら、単独で入院患者の主治医となり、責任を持った医療を遂行する能力を学び、指導医から自立して診療できるようになる。診断と治療計画及び薬物療法の診療能力をさらに充実させるとともに、認知行動療法や精神力動的な精神療法を上級者の指導の下に実践する。慢性統合失調症患者等を対象とした心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神医療等を学ぶ。外部の研究会や学会などで積極的に症例発表する。

B. 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル（別紙）」、「研修記録簿（別紙）」を参照。

C. 個別項目について

① 医師としての倫理性・社会性

社会人として常識のある態度や素養が求められることはもちろん、患者中心の医療を実践し、その人権を尊重した適切な医療を遂行する。他職種で構成されるチーム医療を実践し、リエゾン・コンサルテーション症例を通して、他科との連携を持ち、医師としての責任や社会性、倫理観などについても学ぶ。北里大学病院倫理委員会主催の講習会やセミナーなどにも参加する。

② 学問的姿勢

専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽、自己学習することが求められる。受持ち患者の診療で浮かび上がってきた疑問や問題点を放っておかず、指導医に質問したり、教科書や論文を読んだりすることで、解決の糸口を見つけようとする姿勢が求められる。さらに、その過程で、過去の類似症例を文献的に調査するなどの自ら学び考える姿勢を心掛ける。また、研修基幹施設で行われている各研究グループによる研究会や勉強会に積極的に参加し、知識を深める。

③ コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、「患者・医師関係の構築」、「チーム医療の実践」、「安全管理」、「症例プレゼンテーション技術」、「医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解」を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。北里大学病院で開催される医療倫理、医療安全および感染対策の講習会に参加し、それらの知識を深める。

④ 学術活動（学会発表、論文の執筆など）

日本精神神経学会をはじめとする諸学会へ参加し、知識・技能を学習する。精神科領域の学会において、筆頭演者として症例報告や臨床研究の学会発表を1回以上行う。

⑤ 自己学習

北里大学病院の精神神経科医局のインターネットから、北里大学医学部の医学図書館のホームページにアクセスすることで、多種多様な電子ジャーナルを閲覧することが可能である。また医局内には、たくさんの学術雑誌や図書、DVDなどが所蔵されており、自己学習の環境が十分に整備されている。

(4) プログラム管理体制について

A. 専門研修プログラム管理委員会

専門研修プログラム管理委員会は以下の委員で構成する（北里大学東病院の所属となっている委員は、2020年4月以降、北里大学病院の所属となる予定である）。

委員長：医師 宮岡 等（専門研修プログラム統括責任者：北里大学東病院）

委員：

医師 澤山 透（専門研修プログラム副統括責任者：北里大学東病院）

医師 大石 智（専門研修プログラム担当者（医局長）；北里大学東病院）

医師 井上勝夫（専門研修プログラム連携施設責任者：北里大学病院）

看護師 熊坂真由美（北里大学東病院）

精神保健福祉士 伊勢田明子（北里大学東病院）

作業療法士 山本明美（北里大学東病院）

臨床心理士 植松美帆（北里大学東病院）

医師 竹内知夫（専門研修プログラム連携施設責任者：愛光病院）

医師 木村 充（専門研修プログラム連携施設責任者：久里浜医療センター）

医師 物部長承（専門研修プログラム連携施設責任者：けやきの森病院）

医師 山口哲顕（専門研修プログラム連携施設責任者：港北病院）

医師 坂田深一（専門研修プログラム連携施設責任者：相模ヶ丘病院）

医師 石井達範（専門研修プログラム連携施設責任者：相模台病院）

医師 穴倉久里江（専門研修プログラム連携施設責任者：相模原市精神保健福祉センター）

医師 坂井喜郎（専門研修プログラム連携施設責任者：秦野厚生病院）

医師 笠原友幸（専門研修プログラム連携施設責任者：秦野病院）

医師 石井一彦（専門研修プログラム連携施設責任者：大和病院）

医師 白川教人（専門研修プログラム連携施設責任者：横浜市こころの健康相談センター）

医師 高橋 恵（専門研修プログラム連携施設責任者：北里研究所病院）

医師 田 亮介（専門研修プログラム連携施設責任者：駒木野病院）

医師 後藤晶子（鶴が丘ガーデンホスピタル）
医師 中村 満（成増厚生病院）
医師 多田利光（専門研修プログラム連携施設責任者：よしの病院）
医師 山本宏明（専門研修プログラム連携施設責任者：北里大学メディカルセンター）
医師 田中朋子（専門研修プログラム連携施設責任者：埼玉県立精神医療センター）

B. 専門研修プログラム管理委員会の役割

研修基幹施設である北里大学病院精神神経科に専門研修プログラム管理委員会を置き、研修プログラム連携施設担当者と協力して、個々の専攻医の研修状況について管理・改善を行う。

(5) 評価について

A. 評価体制

専攻医に対する指導内容は、統一された研修記録簿に記載して、専攻医と情報を共有するとともに、専門研修プログラム管理委員会で定期的に評価し、改善を行う。

B. 評価方法と評価時期

研修記録簿に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受けるとともに、専攻医も自身の形成的評価を行い、記録する。当該研修施設の指導医と専攻医がその研修施設での研修修了時に、研修目標の達成度を評価し、フィードバックする。但し、1つの研修施設での研修が1年以上継続する場合には、少なくとも1年に1度は評価し、フィードバックすることとする。また、その専攻医評価時には、各施設の研修責任者は、専攻医から、専門研修プログラムや指導医の評価について意見を聞く機会を設ける。そして、研修責任者は、1年に1回、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況、専攻医の評価、指導医ならびに研修プログラムの評価を、専門研修プログラム管理委員会に提出する。

C. 研修の修了

研修期間最終年度末に、専攻医が到達目標および経験目標を達成し

たかどうか評価する。評価は、専門研修プログラム管理委員会が行い、専門研修プログラム統括責任者は、専門研修プログラム管理委員会による修了可否判定の結果を参考にして、修了の可否を決定する。

(6) 全体の管理運営体制

A. 専攻医の就業環境の整備（労務管理）
各施設の労務管理基準に準拠する。

B. 専攻医の心身の健康管理
各施設の健康管理基準に準拠する。

C. 研修プログラムの改善・改良
専門研修プログラム管理委員会にて、プログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。

D. FD の計画・実施
年 1 回、専門研修プログラム管理委員会が主導し、各施設における研修状況を評価する。

【資料】

北里大学病院精神科専門医研修プログラム 研修連携施設概要（全 18 施設）

【神奈川県】

① 愛光病院

- ・施設名：医療法人弘徳会 愛光病院
- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：竹内知夫
- ・指導責任者氏名：竹内知夫
- ・指導医人数：5 人
- ・精神科病床数：359 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）：

疾患	外来患者数 （年間）	入院患者数 （年間）
F0：症状性を含む器質性精神障害	43	8
F1：精神作用物質使用による精神および行動の障害	6	0
F2：統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	1032	202
F3：気分（感情）障害	447	95
F4：神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	383	36
F5：生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	54	0
F6：成人のパーソナリティおよび行動の障害	10	1
F7：精神遅滞（知的障害）	80	0
F8：心理的発達の障害	254	17

F9：小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	55	1
-------------------------------	----	---

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴など）

入院医療では、急性期治療病棟及び児童思春期精神科入院医療管理料を算定する病棟を中心に、児童思春期から老年期まで幅広い年代の入院医療を行っており、その他にもうつ・ストレスケア病棟、精神療養病棟、精神一般病棟も有して、急性期から早期社会復帰、慢性期まで幅広く症例を学ぶことができる。また、質の高い精神科医療が提供できるよう施設基準以上のスタッフの配置や看護師比率の高さなども特色である。

外来医療では、統合失調症患者の治療の他、思春期専門外来やうつ・ストレス系疾患の専門外来なども行っている。デイケアでは、統合失調症を中心としたプログラムと休職中の方を対象とした多職種によるリワークプログラムを行っている。その他にも臨床心理士を多数配置したカウンセリングや多職種による精神科訪問看護なども積極的に展開している。

併設施設等：デイケアセンター、精神科作業療法、精神科訪問看護、精神障害者福祉ホーム、クリニック、精神科救急輪番、など。

・週間スケジュール

	月	火	水	木	金	
9:00-12:00	外来診療 ※) 1	病棟業務	自己学習	病棟業務	病棟業務	
13:00- 17:00	病棟業務 ※) 2	病棟業務 ※) 2	自己学習	病棟業務 ※) 2	病棟業務 ※) 2	
16:30- 18:00	医局会議 ※) 3					

※) 1 外来診療は原則週1回(半日)。

また、ローテーションにより随時新患外来の診療を行う。

※) 2 適宜、病棟にて受持ち患者のカンファレンス、受持ち患者の退院支援委員会に参加する。

※) 3 毎月1回第3月曜日の16時30分より、医局会議に参加する。

・年間スケジュール

4月	院内オリエンテーション(3日間) 研究会(神精協主催)
5月	院内研修(禁煙教育) 講演会(日精協神奈川県支部・厚木医師会共催)
6月	院内研修(院内感染) 神奈川県精神医療懇話会、日本精神神経学会学術総会、 厚木児童思春期ネットワーク主催ミニワーク
7月	院内研修(行動制限) 症例検討会(東海大学)、神精協神精診合同講演会
8月	院内研修(防災) 厚木児童思春期ネットワーク本講座
9月	院内研修(医療安全)、職員伝達講習 神精協研修会
10月	院内研修(褥瘡対策) 日本精神科医学会
11月	院内研修(院内感染)、院長講話 厚木児童思春期ネットワーク主催ミニワーク
12月	院内研修(医療安全)
1月	院内研修(人権倫理と個人情報)
2月	院内研修(防災) 院内研究発表会
3月	職員伝達講習 総括的評価

② 久里浜医療センター

- ・施設名：独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター
- ・施設形態：独立行政法人国立病院機構
- ・院長名：樋口 進
- ・指導責任者氏名：木村 充
- ・指導医人数：6人
- ・精神科病床数：194床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）：

疾患	外来患者数 （年間）	入院患者数 （年間）
F0：症状性を含む器質性精神障害	258	13
F1：精神作用物質使用による精神および行動の障害	1002	557
F2：統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	529	174
F3：気分（感情）障害	943	236
F4：神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	1081	282
F5：生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	14	8
F6：成人のパーソナリティおよび行動の障害	26	4
F7：精神遅滞（知的障害）	13	7
F8：心理的発達の障害	3	2
F9：小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	12	5

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴など）

1. 依存症分野：最も古いアルコール依存症の専門治療施設として依存症の診療を行うと共に、厚労省による全国依存症治療拠点施設として指定されており、全国研修などによってわが国の依存症診療をリードする役割を担っている。さらに近年はアルコール以外の嗜癖関連疾患にも積極的に関与しており、インターネット依存やギャンブル障害の専門外来を開設している。

2. 司法精神医学分野：医療観察法病棟は2病棟を有し、病床数は国立精神神経医療研究センターに次いで2番目に多く、司法精神医学の分野にも積極的に貢

献している。

3. 認知症疾患医療センター：神奈川県認知症疾患医療センターの指定を受けており、器質性精神疾患の専門外来を有する。

4. 一般精神医学分野：思春期専門外来を開設している。また、修正型 ECT およびクロザピンによる治療を導入しており、近隣の精神科病院及びクリニックと提携して統合失調症やうつ病の難治例も積極的に診療を行っている。一方、デイケアは一般精神デイケア、アルコール依存症専門デイケアに加えてうつ病およびアルコール依存症を対象とした復職支援プログラムにも取り組んでいる。訪問看護による地域医療も実施している。

5. 研究部門：臨床研究部が設置されており、依存症については疫学研究や生物学的研究において日本を代表する施設である。また、日本アルコール関連問題学会事務局が設置されており、学会の運営にも積極的に関与している。その他、3 テスラ MRI が稼働しており、脳機能画像研究を開始している。また、アルコール代謝酵素の遺伝子多型はアルコール依存症のほぼ全例で決定しており、分子疫学を用いた学会発表、論文発表を活発に行っている。

6. 研修部門：教育情報部を設置し、アルコール依存症、ギャンブル依存症、インターネット依存の各依存に関する研修を定期的の実施している。研修の対象は、医師、看護師、心理療法士、ソーシャルワーカー、作業療法士、保健師といった医療職の他、回復支援施設職員、一般住民、教育関係者、警察関係者、アルコール業界等幅広く実施している。

・週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
8:30-9:00	外来予診	外来予診	外来予診	外来予診	外来予診	
9:00-12:00	外来予診 病棟業務	外来予診 病棟業務	外来予診 病棟業務	外来予診 病棟業務	外来予診 病棟業務	
13:00- 16:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟カンファレンス	病棟業務	

16:00- 18:00	医局会 論文輪読会	病棟業務	病棟業 務	病棟業務	病棟業務	
-----------------	--------------	------	----------	------	------	--

・年間スケジュール

	内容
4月	オリエンテーション/指導医の指導実績報告提出
5月	横須賀三浦精神科医会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加 アルコール依存症臨床医等研修参加
7月	国立病院機構精神科レジデントフォーラム参加
8月	
9月	久里浜・釜山合同ワークショップ参加
10月	アルコール関連問題学会参加
11月	アルコール依存症臨床医等研修参加
12月	研修プログラム管理委員会参加
1月	アルコール依存症回復施設職員研修参加
2月	神奈川県精神神経学会参加・演題発表
3月	研修プログラム評価報告書の作成

③ けやきの森病院病院

- ・施設名：医療法人社団朋友会けやきの森病院
- ・施設形態：医療法人 単科精神科病院
- ・院長名：堤 康彦
- ・指導責任者氏名：物部長承
- ・指導医人数：3人
- ・精神科病床数：184
- ・疾患別入院数・外来数（年間）：

疾患	外来患者数 （年間）	入院患者数 （年間）
FO：症状性を含む器質性精神障害	3	2

F1：精神作用物質使用による精神および行動の障害	3	1
F2：統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	248	51
F3：気分（感情）障害	153	16
F4：神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	108	6
F5：生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	14	1
F6：成人のパーソナリティおよび行動の障害	1	1
F7：精神遅滞（知的障害）	2	0
F8：心理的発達の障害	1	2
F9：小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	2	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴など）

神奈川県湘南東部地区における 184 床を有する精神科単科病院である。精神科急性期治療病棟 I 44 床、精神科療養病棟 140 床で運営しており、H24～H26 年まで年平均 212 件の入院受入を行っている。

主に統合失調症圏が 7 割、気分障害圏が 2 割、その他 1 割の入院患者構成となっており、外来はここ数年気分障害圏が増えてきている。これに合わせてデイケアにおいてはリワークプログラムを 3 年前から導入し、現在 1 日平均 7～8 名が利用している。

・週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
9:00-12:00	病棟業務 または 外来研修	病棟業務 または 外来研修	病棟業務 または 外来研修	病棟業務 または 外来研修	病棟業務 または 外来研修	病棟業務 または 外来研修
13:00- 17:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務 クルズ ス	病棟業務	病棟業務 症例検 討会（隔	病棟業務 心理教育

					週)	
--	--	--	--	--	----	--

・年間スケジュール

	研修内容
4月	オリエンテーション
5月	精神疾患の基礎知識の習得
6月	薬物療法の基礎知識の習得
7月	精神保健福祉法の基礎知識の習得
8月	各入院形態の基礎知識と実際
9月	精神療法の基礎知識の習得
10月	薬物療法以外の治療法の可能性について
11月	精神保健福祉法に基づいた実際の精神科医療について
12月	精神科救急について
1月	福祉サービスなどの地域生活支援について
2月	訪問看護やデイケア、作業所等の見学
3月	研修の総括・研修報告と評価表の作成

④ 港北病院

- ・施設名：医療法人正永会 港北病院
- ・施設形態：精神科病院
- ・院長名：山口哲顕
- ・指導責任者氏名：山口哲顕
- ・指導医人数：3人
- ・精神科病床数：210床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）：

疾患	外来患者数 （年間）	入院患者数 （年間）
FO：症状性を含む器質性精神障害	51	14

F1：精神作用物質使用による精神および行動の障害	4	4
F2：統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	366	208
F3：気分（感情）障害	147	32
F4：神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	74	9
F5：生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	2	0
F6：成人のパーソナリティおよび行動の障害	5	4
F7：精神遅滞（知的障害）	9	1
F8：心理的発達の障害	4	1
F9：小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	1	1

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴など）

当院は210床を有する単科精神科病院であり、精神科デイケア、精神科訪問看護を併設している。地域の内科、外科等の病院、診療所や福祉保健センターなどの公的機関とも連携し、診察にあたっている。また、神奈川県精神科救急医療体制の輪番病院、準基幹病院として精神科救急患者の受け入れにも対応している。一般臨床に加え、依存症、てんかんについても専門施設、専門外来で研鑽を積んだ医師が在籍しており、その医師の指導のもとで診断治療を経験することができる。

・週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
8:45-9:30	入院 カンファ レンス	入院 カンファ レンス	入院 カンファ レンス		抄読会 (9:00～ 9:30)	
9:30-12:00	外来予診	外来予診 病棟業務	外来予診 病棟業務		外来予診 病棟業務	院長回診 病棟業務
12:00- 12:30	医局会、 ケースカ ンファレ ンス		抄読会		院内研究会	

13:00- 17:00	病棟業務 レントゲン カンファ レンス	病棟業務	病棟業務		病棟業務	病棟業務
17:00- 19:30	心理療法 研究会(月 1回)					

・年間スケジュール

4月	オリエンテーション
5月	
6月	横浜市保土ヶ谷区医師会地域連携講演会参加 日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	
9月	横浜市精神科医会講演会参加
10月	横浜市保土ヶ谷区医師会地域連携講演会参加 横浜市精神科医会講演会参加
11月	横浜市精神科医会講演会参加
12月	
1月	横浜市精神科医会講演会参加
2月	横浜市保土ヶ谷区医師会地域連携講演会参加

3月	横浜市精神科医会講演会参加
----	---------------

⑤ 相模ヶ丘病院

- ・施設名：医療法人社団 博奉会 相模ヶ丘病院
- ・施設形態：私立病院機構
- ・院長名：坂田深一
- ・指導責任者氏名：坂田深一
- ・指導医人数：2人
- ・精神科病床数：200床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）：

疾患	外来患者数 （年間）	入院患者数 （年間）
F0：症状性を含む器質性精神障害	162	65
F1：精神作用物質使用による精神および行動の障害	13	11
F2：統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	620	251
F3：気分（感情）障害	232	116
F4：神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	81	23
F5：生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	2	1
F6：成人のパーソナリティおよび行動の障害	13	8
F7：精神遅滞（知的障害）	105	8
F8：心理的発達の障害	10	4
F9：小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	5	3

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴など）

各種専門医療、地域精神医療に積極的に取り組んでいる。専門医療としては、認知症や統合失調症、気分障害などを扱っている。また、精神科救急医療にも取り組んでいる。

社会参加のサポート体制としては、訪問看護、デイケアなどの通所施設やグル

ープホームなどを有している。多職種によるカンファレンスなどチーム医療を積極的に行っている。ソーシャルワーカーなどのスタッフが地域と連携して、アウトリーチにつとめている。

・週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
9:00-12:00	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	
13:00- 16:00	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟治療 評価 会議	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	
16:00- 17:00	病棟業務	医局会 症例検討 会	病棟治療 評価 会議	脳波判読 会	病棟業務	
17:00- 18:00				抄読会		

・年間スケジュール

4月	オリエンテーション SR1 研修開始 / SR2・3 前年研修報告書提出/指導医の指導 実績報告提出
5月	教室研究会参加/県精神科集談会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	
9月	県精神科集談会参加
10月	SR1・2・3 研修中間報告書提出
11月	地方精神神経学会参加

月	
1 2 月	研修プログラム管理委員会参加
1月	
2月	地方精神神経学会参加・演題発表
3月	SR 1・2・3 研修報告書・研修プログラム評価報告書の作成

⑥ 相模台病院

- ・施設名：相模台病院
- ・施設形態：民間総合病院
- ・院長名： 山上達也
- ・指導責任者氏名：石井達範
- ・指導医人数：1人
- ・精神科病床数：155床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）：

疾患	外来患者数 （年間）	入院患者数 （年間）
FO：症状性を含む器質性精神障害	727	94
F1：精神作用物質使用による精神および行動の障害	62	8
F2：統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	1284	166
F3：気分（感情）障害	534	69
F4：神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	46	6
F5：生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	0	0
F6：成人のパーソナリティおよび行動の障害	46	6
F7：精神遅滞（知的障害）	54	7
F8：心理的発達の障害	15	1
F9：小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	8	1

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴など）

当院は一般病棟 151 床、精神科病棟 155 床を有する総合病院であり、精神疾患およびリエゾン・コンサルテーションなど幅広く研修が可能である。

精神科病棟においては精神科救急、内因性精神病の急性増悪、認知症、神経症、人格障害など幅広く治療経験を積むことが可能である。

また、週に一回外来初診、新規入院患者のプレゼンテーションを後期研修医が行ない、診断学・治療学についてカンファレンスを行なっている。

さらに画像・脳波読影なども指導医よりスーパーバイズを行なっている。

後期研修医は指導医に陪席し、神経症性疾患・人格障害者における精神療法を研修している。

・週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
8:45-9:00	外来予診	外来予診	外来予診	外来予診	外来予診	
9:00-12:00	外来予診 病棟業務	(精神科) 部長回診	外来予診 病棟業務	外来予診 病棟業務	病棟業務	
13:00- 16:00	精神科医 局会 病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	入退院カ ンファレ ンス	
16:00- 18:00	研究会	病棟業務	論文輪読 会	病棟業務	レジデ ントカン ファレ ンス	

・年間スケジュール

- 6月 日本精神神経学会への参加
- 8月 院内特別講演会
- 9月 院内研究発表会
- 12月 精神科各部署全員での症例発表会

⑦ 相模原市精神保健福祉センター

- ・施設名：相模原市精神保健福祉センター

- 施設形態：精神保健福祉センター
- 所長名：宍倉久里江
- 指導責任者氏名：宍倉久里江
- 指導医人数：1人
- 精神科病床数：なし
- 疾患別入院数・外来数（年間）：

疾患	外来患者数 （年間）	入院患者数 （年間）
F0：症状性を含む器質性精神障害	8	0
F1：精神作用物質使用による精神および行動の障害	32	0
F2：統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	30	0
F3：気分（感情）障害	26	0
F4：神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	26	0
F5：生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	0	0
F6：成人のパーソナリティおよび行動の障害	0	0
F7：精神遅滞（知的障害）	0	0
F8：心理的発達の障害	18	0
F9：小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	0	0

- 施設としての特徴（扱う疾患の特徴など）

精神保健分野であらゆる精神疾患のなかでも特に複雑困難事例（自殺、ひきこもり、自傷他害、依存症など）に対する相談支援やセカンドオピニオン、訪問、措置診察、社会復帰支援、講演会、市議会への出席、市内自殺者の統計分析など調査研究、こころの電話相談、スーパーバイザーとして他施設の事例検討会への参加、各種団体や関連機関と精神保健の今日的課題について協議する各種の協議会への参加、入院患者の人権を守る精神医療審査会の事務局や、差別解消や自殺予防など社会的課題に関する普及啓発事業などを行っている。市民の安心安全と健康および民間病院の診療を精神保健という側面から支える裏方にして最先端な社会的業務である。

- 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土・日
終日	特定相談事業、訪問等相談事業、会議、自殺未遂者支援、精神科救急診察	特定相談事業、訪問等相談事業、会議、自殺未遂者支援、精神科救急診察	特定相談事業、訪問等相談事業、会議、自殺未遂者支援、精神科救急診察 ひきこもり相談事業	特定相談事業、訪問等相談事業、会議、自殺未遂者支援、精神科救急診察 不安強迫性障害相談事業、ひきこもり家族支援プログラム	特定相談事業、訪問等相談事業、会議、自殺未遂者支援、精神科救急診察 アルコール依存症家族プログラム、薬物依存症当事者プログラム	電話相談

・年間スケジュール

9月、3月 自殺対策強化月間
6月、9月、12月、3月 市議会
11-12月その他 研究発表

⑧ 秦野厚生病院

- ・施設名：秦野厚生病院
- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：坂井喜郎
- ・指導責任者氏名：坂井喜郎
- ・指導医人数：3人
- ・精神科病床数：160床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）：

疾患	外来患者数 （年間）	入院患者数 （年間）
----	---------------	---------------

F0：症状性を含む器質性精神障害	81	40
F1：精神作用物質使用による精神および行動の障害	10	7
F2：統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	488	84
F3：気分（感情）障害	301	34
F4：神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	144	8
F5：生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	19	0
F6：成人のパーソナリティおよび行動の障害	33	12
F7：精神遅滞（知的障害）	87	10
F8：心理的発達の障害	26	5
F9：小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	2	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴など）

急性期治療と地域生活支援を二本柱として、医師、看護師をはじめ、精神保健福祉士、作業療法士など多数のコ・メディカルとのチームワーク医療を実践している。

民間精神科病院の立ち位置としては、在宅での生活に軸足を置いた医療を目指しており、訪問看護やデイケアのみならず、就業までを含めた幅広いサポートを実施している。

・週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
午前	病棟実習あるいは外来での予診・陪診	病棟実習あるいは外来での予診・陪診	病棟実習あるいは外来での予診・陪診	病棟実習あるいは外来での予診・陪診	病棟実習あるいは外来での予診・陪診	
午後	病棟カンファレンス、医局カンファレンス	病棟実習講義	病棟実習講義	病棟実習症例検討会	病棟実習1週間のまとめのカンファレンス	

・年間スケジュール

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会（任意） 日本老年精神医学会（任意）
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	日本精神科医学会（任意）
12月	
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書作成

⑨ 秦野病院

- ・施設名：医療法人社団秦和会 秦野病院
- ・施設形態：精神科単科病院
- ・院長名：笠原友幸
- ・指導責任者氏名：笠原友幸
- ・指導医人数：2人
- ・精神科病床数：151床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）：

疾患	外来患者数 （年間）	入院患者数 （年間）
F0：症状性を含む器質性精神障害	76	27
F1：精神作用物質使用による精神および行動の障害	18	13
F2：統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	396	87
F3：気分（感情）障害	338	80

F4：神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	265	10
F5：生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	0	0
F6：成人のパーソナリティおよび行動の障害	11	1
F7：精神遅滞（知的障害）	16	1
F8：心理的発達の障害	4	1
F9：小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	2	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴など）

神奈川県の精神科救急システムに参加しており、精神科救急の現場を体験することができる。多様な精神疾患にできる体制を有しており地域における様々な症例の診療を行っている。統合失調症に対して急性期薬物療法や作業療法、デイケアプログラム、就労支援施設、居住施設などを利用して社会復帰まで一貫して治療を行うことができる。また感情障害や不安障害の外来通院患者も多く、精神療法や認知行動療法の経験を積むことも可能である。医療観察法における通院医療機関の指定を受けており、医療観察法の現場を知ることができる。物忘れ外来と認知症病棟を設置しているので認知症の早期発見、早期治療さらに周辺症状の対応について経験することができる。

・週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
8:15-9:00	院長回診	院長回診		院長回診	院長回診	
9:00-12:00	外来陪診	外来陪診	デイケア活動支援	外来予診担当	病棟診察	
13:00-17:00	病棟診察	病棟診察	病棟診察	病棟診察	病棟カンファレンス	
17:00-18:00	症例検討会・医局会				脳波読影会	

月に 1 回地域サービス連絡会議に参加
 月に 1 回保健所における精神保健相談に参加
 月に 1 回精神科救急当番における医療活動の実態を学ぶ
 月に 1 回ないし 2 回医療観察法におけるケア会議に参加
 月に 1 回アルコール勉強会に参加

・年間スケジュール

4 月	オリエンテーション 総合研修(当院の目指す医療とは) 精神科関係の法律についてのセミナー開催
5 月	精神神経学会参加
6 月	第 1 回家族教室開催
7 月	病院納涼祭(地域住民との交流)
8 月	
9 月	
10 月	
11 月	第 2 回家族教室開催
12 月	クリスマスライブコンサート(地域交流)
1 月	
2 月	精神保健会議に参加

⑩ 大和病院

- ・施設名：医療法人（社団）正史会 大和病院
- ・施設形態：民間単科精神科病院

- 院長名：石井一彦
- 指導責任者氏名：金澤 直
- 指導医人数：3人
- 精神科病床数：250床
- 疾患別入院数・外来数（年間）：

疾患	外来患者数 （年間）	入院患者数 （年間）
F0：症状性を含む器質性精神障害	63	9
F1：精神作用物質使用による精神および行動の障害	28	8
F2：統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	1079	323
F3：気分（感情）障害	473	55
F4：神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	389	19
F5：生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	6	2
F6：成人のパーソナリティおよび行動の障害	51	4
F7：精神遅滞（知的障害）	66	11
F8：心理的発達の障害	9	0
F9：小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	35	0

- 施設としての特徴（扱う疾患の特徴など）

当院は精神科一般病床 70 床、精神療養病棟 180 床の民間単科精神科病院で、神奈川県精神科救急医療の輪番病院として、救急医療に積極的に参加している。

本年4月から物忘れ外来を開始した。

社会復帰に関しては、平成4年7月から作業療法を開始し、平成6年6月からデイケア（現在はデイナイトケア）、平成11年3月から福祉ホーム・生活訓練施設（現在はグループホーム）を開設している。

また、訪問看護を実施し、平成25年8月から、綾瀬市に訪問看護ステーション、平成27年6月から綾瀬市に地域包括支援センターⅠ型「トライアングル」を開設している。

- 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
8:30~9:00	申し送り	申し送り	申し送り	申し送り	申し送り	
9:00~12:30	外来診療 病棟診療	外来診療 病棟診療	外来診療 病棟診療	外来診療 病棟診療	外来診療 病棟診療	
13:30 ~ 15:00	病棟診療	病棟診療	病棟診療	病棟診療	病棟診療	
15:00 ~ 16:00	ケース・ カンファ レン	診療会議	病棟診療	病棟診療	病棟診療	
16:00 ~ 16:30	病棟診察	病棟診察	病棟診察	病棟診察	病棟診察	
16:30 ~ 17:30	病棟診察	医局会 医局カン ファレン ス	病棟診察	病棟診察	病棟診察	

・年間スケジュール

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会 日本司法精神医学会 日本老年医学会
7月	日本うつ病学会総会
8月	

9月	日本生物学的精神医学会
10月	日本精神科医学会学術大会 日本てんかん学会学術総会 日本精神分析学会 日本児童青年医学会 日本認知・行動療法学会
11月	
12月	
1月	
2月	日本不安症学会学術大会 神奈川県精神医学会
3月	日本統合失調症学会

⑪ 横浜市こころの健康相談センター

- ・施設名：横浜市こころの健康相談センター
- ・施設形態：精神保健福祉センター
- ・センター長名：白川教人
- ・指導責任者氏名：白川教人
- ・指導医人数：4人
- ・精神科病床数：なし
- ・疾患別入院数・外来数（年間）：

疾患	外来患者数 （年間）	入院患者数 （年間）
FO：症状性を含む器質性精神障害	10	0

F1：精神作用物質使用による精神および行動の障害	19	0
F2：統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	109	0
F3：気分（感情）障害	23	0
F4：神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	13	0
F5：生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	0	0
F6：成人のパーソナリティおよび行動の障害	15	0
F7：精神遅滞（知的障害）	4	0
F8：心理的発達の障害	2	0
F9：小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	0	0

- 施設としての特徴（扱う疾患の特徴など）

診療所としての登録はしていないため、現在通常の通院治療等を行っている。後述する精神科救急業務において、精神保健福祉法に基づく法定診察（いわゆる措置診察等）を、年間約 200 件行っている。精神保健指定医資格取得後の研修であれば、法定診察を通じて専門医取得のための幅広い症例の診察が可能である（上記は H26 年度平日日中の同診察における疾患分類）。また同診察の調整業務を通じて、精神保健福祉法の運用や精神科救急システムにおける医療連携について、実践的に学ぶことが可能である。

- 週間スケジュール

当センターでは、精神保健福祉センターならではの様々な内容の研修を提供できるが、当センターの性質上、定期的に予定が組まれていないものが殆どで、予め研修スケジュールを組んで提示することが困難である。従って研修の時期と期間が決まってから、以下の中からスケジュールを組んで行くことになる。当センターで高頻度に行われ、研修の場として提供できる主なものは次の通りである。

地域支援

精神保健福祉コンサルテーション（事例相談等を含む）

各行政区等連絡会、地域自立支援協議会 等々、多くの会議へのオブザーバー参加

精神科救急

精神科救急医療情報窓口受付業務（ソフト救急）

精神科救急にまつわる患者移送と措置診察（ハード救急）

精神科救急事例検討

精神保健福祉法 22 条、24 条、26 条通報実施検討カンファレンス

精神保健福祉センター法定業務

精神障害者手帳判定

自立支援医療費（精神通院）支給認定

普及・啓発、人材育成

精神疾患、精神保健福祉、自殺対策（自死遺族の集い等への参加を含む）、メンタルヘルス等に関する講演の助手及び受講。その他 当センターが主催・共催する種々の事業・会議・イベントへの参加が可能

電話相談

こころの電話相談、特定電話相談（依存症電話相談、自死遺族電話相談など）

その他

所内各課の会議への参加を通して、当センターの多岐にわたる業務全体を俯瞰する。

・年間スケジュール

4 月	精神保健福祉コンサルテーション 精神科救急 精神障害者手帳判定、自立支援医療費（精神通院）支給認定 電話相談 依存症関連研修会 精神保健福祉関連連絡会議
5 月	精神保健福祉コンサルテーション 精神科救急 精神障害者手帳判定、自立支援医療費（精神通院）支給認定 電話相談 精神保健福祉基礎研修～基礎医学編～ 精神保健福祉関連研修会
6 月	精神保健福祉コンサルテーション

	<p>精神科救急 精神障害者手帳判定、自立支援医療費（精神通院）支給認定 電話相談</p> <p>精神保健福祉基礎研修～基礎医学編～ 自殺対策包括相談会、自殺対策関連研修会 自殺対策研修～基礎研修～</p>
7月	<p>精神保健福祉コンサルテーション 精神科救急 精神障害者手帳判定、自立支援医療費（精神通院）支給認定 電話相談</p> <p>アルコール・薬物等依存症対応研修 自殺対策研修応用編～講師養成研修～ 精神保健福祉基礎研修～病院を知ろう編～ 精神保健福祉関連連絡会議</p>
8月	<p>精神保健福祉コンサルテーション 精神科救急 精神障害者手帳判定、自立支援医療費（精神通院）支給認定 電話相談</p> <p>精神保健福祉基礎研修～支援施設を知ろう編～ ひきこもり対応研修</p>
9月	<p>精神保健福祉コンサルテーション 精神科救急 精神障害者手帳判定、自立支援医療費（精神通院）支給認定 電話相談</p> <p>精神保健福祉基礎研修～障害理解編～ 自殺対策講演会、自殺対策キャンペーン 精神保健福祉関連連絡会議、自殺対策関連連絡会議</p>
10月	<p>精神保健福祉コンサルテーション 精神科救急 精神障害者手帳判定、自立支援医療費（精神通院）支給認定 電話相談</p> <p>災害時こころのケア研修 自殺対策研修応用編～相談実践研修～</p>
11月	<p>精神保健福祉コンサルテーション 精神科救急 精神障害者手帳判定、自立支援医療費（精神通院）支給認定</p>

	<p>電話相談</p> <p>精神保健福祉実践研修～多職種連携編～</p> <p>精神保健福祉実践研修～グループワーク編～</p> <p>うつ病対応研修</p>
1 2 月	<p>精神保健福祉コンサルテーション</p> <p>精神科救急</p> <p>精神障害者手帳判定、自立支援医療費（精神通院）支給認定</p> <p>電話相談</p> <p>電話相談員研修、</p> <p>自殺対策関連連絡会議</p>
1 月	<p>精神保健福祉コンサルテーション</p> <p>精神科救急</p> <p>精神障害者手帳判定、自立支援医療費（精神通院）支給認定</p> <p>電話相談</p> <p>自殺対策包括相談会、自殺対策関連研修会</p> <p>依存症関連研修会</p>
2 月	<p>精神保健福祉コンサルテーション</p> <p>精神科救急</p> <p>精神障害者手帳判定、自立支援医療費（精神通院）支給認定</p> <p>電話相談</p> <p>精神保健福祉関連連絡会議</p>
3 月	<p>精神保健福祉コンサルテーション</p> <p>精神科救急</p> <p>精神障害者手帳判定、自立支援医療費（精神通院）支給認定</p> <p>電話相談</p>

【東京都】

⑫ 北里研究所病院

- 施設名：北里大学北里研究所病院
- 施設形態：一般総合病院
- 院長名：土本寛二
- 指導責任者氏名：高橋 恵
- 指導医人数：1 人

- 精神科病床数：なし
- 疾患別入院数・外来数（年間）：

疾患	外来患者数 （年間）	入院患者数 （年間）
F0：症状性を含む器質性精神障害	57	0
F1：精神作用物質使用による精神および行動の障害	42	0
F2：統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	136	0
F3：気分（感情）障害	415	0
F4：神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	438	0
F5：生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	6	0
F6：成人のパーソナリティおよび行動の障害	1	0
F7：精神遅滞（知的障害）	1	0
F8：心理的発達の障害	2	0
F9：小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	14	0

- 施設としての特徴（扱う疾患の特徴など）

当院は一般病床 329 床、26 診療科を有する総合病院であり、リエゾン・コンサルテーションでは多彩な疾患、症例を経験することが可能である。緩和ケアチームに参加し、がん医療における精神的にニーズに関して学び、治療経験を積むこともできる。精神科病床はないが、地域の社会資源と連携した精神科の外来診療を経験できる。

また院内に高齢者医療支援チームが設置されており、せん妄や認知症への対応における精神医学的なニーズへの対応を学ぶことができる。さらに老年精神医学会専門医、認知症専門医の指導のもと高齢者の精神疾患や認知症患者への対応に関しても経験を積むことができる。

さらに精神科リハビリテーションの手法であるソーシャルスキルズトレーニングの経験者（SST 普及協会認定講師）のもとで、個別 SST に関するトレーニングを受けることができる。当院は提携を結んだ企業との産業保健に関する指導も行っているが、そのなかで産業精神保健分野に関する経験も積むことができる。

- 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
8:30-12:00	外来業務・ リエゾン 業務	外来業務・ リエゾン 業務	外 来 業 務・リエ ゾン業務	外 来 業 務・リエ ゾン業務	外 来 業 務・リエ ゾン業務	1,3,5 週 SST
13:00- 15:00	外来業務・ リエゾン 業務	外来業務・ リエゾン 業務	外 来 業 務・リエ ゾン業務	外 来 業 務・リエ ゾン業務	外 来 業 務・リエ ゾン業務	
15:00- 17:00	高 齢 者 医 療 支 援 チ ーム回診	外来業務・ リエゾン 業務	カンファ レンス・ 症例検討	クルズス	月 1-2 回産業精 神保健の 現場見学 または実 践	
17:00- 18:00	脳波・頭部 画像判読		内科系ク ルズス (任意参 加)			
18:00- 20:00				北里大学 東病院症 例検討会 参加		

・年間スケジュール

4 月	オリエンテーション
5 月	
6 月	日本精神神経学会参加 オレンジカンファ参加 日本老年精神学会参加(任意)
7 月	東京精神医学会参加 SST 普及協会経験交流ワークショップ参加(任意)

8月	
9月	オレンジカンファ参加
10月	つくし会総会参加
11月	東京精神医学会参加 日本認知症学会参加(任意)
12月	オレンジカンファ参加 SST 普及協会学術集会参加(任意)
1月	
2月	
3月	東京精神医学会における発表 オレンジカンファ参加 研修プログラム評価報告書作成

オレンジカンファ: 北里研究所病院および関連施設の高齢者・認知症に関する多職種症例検討会
つくし会総会: 北里研究所病院および契約施設の産業保健に関する情報交換会

⑬ 駒木野病院

- ・施設名：医療法人財団青溪会 駒木野病院
- ・施設形態：精神単科病院
- ・院長名：菊本弘次
- ・指導責任者氏名：田 亮介
- ・指導医人数：7人
- ・精神科病床数：482床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）：

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0：症状性を含む器質性精神障害	472	116
F1：精神作用物質使用による精神および行動の障害	581	161
F2：統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	1138	299
F3：気分（感情）障害	726	204
F4：神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	740	65
F5：生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	24	3
F6：成人のパーソナリティおよび行動の障害	54	16
F7：精神遅滞（知的障害）	168	19
F8：心理的発達の障害	197	32
F9：小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	221	10

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴など）

東京都八王子市に位置する単科精神科病院であり、2つの精神科救急病棟（計91床）を中心に措置入院を含めて急性期治療に積極的に取り組んでいる。認知症に対しては3TのMRIを利用してメモリー外来を開設し、BPSDの激しい方には認知症治療病棟での治療を行っている。加えて児童精神科を有し、外来のみならず33床の児童精神科病棟で治療にあたり、八王子東支援校の協力を得て院内学級も運営されている。そのほかに多職種による退院支援、作業療法、デイケア、アルコール依存症の治療プログラム、修正型電撃けいれん療法を実施しており、様々な年齢層・精神疾患に対応できる体制をとっている。またグループホーム、市役所、保健所などに嘱託医として派遣し、地域連携にも重点をいれている。

・週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
9:00-12:00	病棟業務・病棟カンファ	病棟業務	休み	病棟業務	病棟業務	病棟業務
12:00-	医局会（第1）					

13:00	薬の説明会				
13:00-	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
16:30					
17:00-	医局会（第3）				
18:30	医局勉強会				

・年間スケジュール

	内容
4月	オリエンテーション/指導医の指導実績報告提出
5月	教室研究会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	
9月	
10月	教室研究会参加
11月	
12月	
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書の作成

⑭ 鶴が丘ガーデンホスピタル

- ・施設名：医療法人社団鶴永会 鶴が丘ガーデンホスピタル
- ・施設形態：精神科病院
- ・院長名：後藤晶子
- ・指導責任者氏名：秋元洋一
- ・指導医人数：4人
- ・精神科病床数：200床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）：

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0：症状性を含む器質性精神障害	68	20
F1：精神作用物質使用による精神および行動の障害	8	6
F2：統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	821	172
F3：気分（感情）障害	342	104
F4：神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	137	18
F5：生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	5	6
F6：成人のパーソナリティおよび行動の障害	68	7
F7：精神遅滞（知的障害）	0	6
F8：心理的発達の障害	0	7
F9：小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	0	4

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴など）

本施設は昭和46年開院。南多摩から横浜、相模原、川崎を医療圏とする200床の精神科単科病院。指定病床5床。「病院らしくない開放的なホスピタリティ」により精神科急性期病棟44床では初発例や思春期症例が比較的多い。また認知症疾患治療病棟48床を有し、オレンジプランに基づく認知症患者アウトリーチ事業に参画し訪問診療の機会も得られる。この他開院当時から継続する家族教室、さらに家族及び当事者への疾患教育プログラム、うつ病への心理教育プログラムが盛ん。指導医は学校医、産業医、自治体の保険相談、一般病院へのリエゾン業務等地域での活動も兼務しており研鑽を積む機会が得られる。

・週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
9:00-9:30	病棟ラウンド	病棟ラウンド	病棟ラウンド	病棟ラウンド	病棟ラウンド	
9:30-9:40	朝ミーティング参加	朝ミーティング参加	朝ミーティング参加	朝ミーティング参加	朝ミーティング参加	

9:40-12:00	外来陪審	外来陪審	外来陪審	外来陪審	外来陪審	
13:00-	病棟診察	病棟診察 (訪問診療)	医局会 医局検討会 各種委員会参加 研修会	病棟診察 治療プログラム参加	病棟診察	

・年間スケジュール

	内容
4月	オリエンテーション/指導医の指導実績報告提出
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	
12月	研修プログラム管理委員会参加
1月	
2月	院内発表
3月	研修プログラム評価報告書の作成

⑮ 成増厚生病院

- ・施設名：医療法人社団翠会 成増厚生病院
- ・施設形態：民間病院
- ・院長名：中村 満
- ・指導責任者氏名：天神雄也
- ・指導医人数：13人
- ・精神科病床数：482床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）：

疾患	外来患者数	入院患者数
----	-------	-------

	(年間)	(年間)
F0：症状性を含む器質性精神障害	135	74
F1：精神作用物質使用による精神および行動の障害	80	95
F2：統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	222	338
F3：気分（感情）障害	162	132
F4：神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	80	28
F5：生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	72	18
F6：成人のパーソナリティおよび行動の障害	4	4
F7：精神遅滞（知的障害）	13	12
F8：心理的発達障害	3	4
F9：小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	1	1

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴など）

都市型の民間精神科病院であり、精神科スーパー救急病棟に加えてアルコール治療病棟・ストレスケア病棟などの急性期治療病棟も有している。精神科の急性期治療を全般的に行っており、思春期から老年期まで多岐にわたる症例を数多く経験することができる。精神保健福祉士が365日24時間専従で、身体科救急から精神科救急への相談や要請に対応する「区西北部精神科情報センター」を病院内に開設しており、東京都区西北部における精神科救急の中心的役割を担っている。内科病棟も併設し内科医が常勤しているので、身体的な合併症の管理が必要な症例も内科医指導の下で多く経験することができる。また急性期入院病棟における治療だけでなく社会復帰病棟からの地域移行支援も積極的に行い、在宅移行後も地域支援室が中心となり患者の治療やケア、生活のサポートを行っている。最近の試みとしては早期予防の目的も兼ね、アルコール依存症患者の子供へのサポートも行っている。救急・急性期から回復期治療、さらには予防や早期介入まで幅広く精神科医療を学ぶことができる病院である。

併設施設等：応急指定、精神科救急病棟、精神科急性期治療病棟、精神科作業療法、精神科デイケア精神科救急輪番、精神科救急情報センター、ワナーハウス、生活訓練施設。

・週間スケジュール

(急性期病棟モデルケース)

	月	火	水	木	金	土
午前	病棟業務 多職種合同 CC	病棟業務	抄読会 病棟業務	デイケア	ECT	
午後	病棟業務	医局会 症例検討会	クリニック または外来 業務	病棟業務	病棟業務	

・年間スケジュール

4月	オリエンテーション 1年目専攻医研修開始 指導医の指導実績報告書提出
5月	
6月	日本精神神経学会総会参加 情報セキュリティ研修 行動制限研修
7月	感染研修 リスク研修
8月	
9月	1・2・3年目専攻医研修中間報告書提出
10月	防災研修
11月	翠会ヘルスケアグループ地域精神保健学会 感染研修 行動制限研修
12月	日本精神科救急学会参加 (任意)
1月	リスク研修
2月	首都圏 ECT ネットワーク研究会 (任意) 感染研修 行動制限研修

3月	1・2・3年目専攻医研修報告書作成・提出
----	----------------------

⑩ よしの病院

- ・施設名：医療法人社団 正心会 よしの病院
- ・施設形態：精神科病院
- ・院長名：多田利光
- ・指導責任者氏名：多田利光
- ・指導医人数：2人
- ・精神科病床数：166床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）：

疾患	外来患者数 （年間）	入院患者数 （年間）
F0：症状性を含む器質性精神障害	13	10
F1：精神作用物質使用による精神および行動の障害	234	137
F2：統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	429	167
F3：気分（感情）障害	100	71
F4：神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	20	6
F5：生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	7	0
F6：成人のパーソナリティおよび行動の障害	5	6
F7：精神遅滞（知的障害）	3	5
F8：心理的発達の障害	4	5
F9：小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	1	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴など）

当院は、166床を有する、精神科単科の病院である。病棟は3つに分かれており、Ⅰ病棟（56床）、Ⅱ病棟（56床）は、精神科療養病棟、Ⅲ病棟（50床）は、精神科急性期治療病棟とアルコール精神疾患専門治療病棟となっている。

外来部門には、大規模デイケアが2単位あり、宿泊型自立訓練施設も備えてい

る。したがって、精神障害の急性期から慢性期、社会復帰までを経験可能である。

東京都の（精神科）指定病院、および応急入院指定病院に指定されているため、措置入院症例も経験でき、重症の急性期精神障害の治療も含め、急性期精神医療を幅広く経験できる。

また、アルコール依存症リカバリープログラムを実施しており、依存症治療も幅広く経験できる特徴がある。

・週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
9:00-9:30	病棟引継	病棟引継	病棟引継	病棟引継	病棟引継	
9:30-12:00	病棟回診 病棟業務	外来予診 初診陪席	病棟回診 病棟業務	外来予診 初診陪席	病棟回診 病棟業務	
13:00- 16:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	
16:00- 17:00	精神医学 勉強会	病棟業務	医局会 症例検討 会	病棟業務	精神医学 勉強会	

・年間スケジュール

4月	オリエンテーション、受持症例の確認
5月	
6月	日本精神神経学会総会 参加
7月	東京精神医学会 参加
8月	
9月	症例の中間まとめ 研修進捗状況の確認
10月	
11月	
12月	症例のまとめ 研修進捗状況の確認
1月	

2月	東京精神医学会 参加（発表）
3月	総括評価 研修プログラム評価報告書の作成

【埼玉県】

⑰ 北里大学メディカルセンター

- ・施設名：北里大学メディカルセンター
- ・施設形態：一般総合病院
- ・院長名：廣瀬隆一
- ・指導責任者氏名：山本宏明
- ・指導医人数：1人
- ・精神科病床数：なし
- ・疾患別入院数・外来数（年間）：

疾患	外来患者数 （年間）	入院患者数 （年間）
F0：症状性を含む器質性精神障害	66	0
F1：精神作用物質使用による精神および行動の障害	5	0
F2：統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	19	0
F3：気分（感情）障害	45	0
F4：神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	66	0
F5：生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	4	0
F6：成人のパーソナリティおよび行動の障害	3	0
F7：精神遅滞（知的障害）	1	0
F8：心理的発達の障害	1	0
F9：小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	4	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴など）

当院は一般病床 372 床、27 診療科を標ぼうしている総合病院であり、リエゾン・コンサルテーション診療研修において特に多くの病態を経験することができ

る。中規模の病院のため、他科の医師との距離感も近く密な連携が取りやすい環境がある。また、他の医療スタッフとの連携も密であり、チーム医療を学ぶために非常に適した土壌がある。特に当院において精神科は緩和ケアチームでも主要な役割を担っており、がん患者をはじめとする緩和医療の場面において精神科医師としての患者との関わり、家族や他の医療スタッフとの関わりや向精神薬の使用法などについて、きめ細やかな指導のもと、経験を積むことができる。

特色のある取り組みとしては、2014年より（公）日本盲導犬協会の協力を得て、動物介在療法を行っている。一般病棟のベッド上にまで犬が訪問する形をとっており、精神科リエゾン診療における有用性を臨床レベルで確認しており、今後の発展が期待される治療法である。抑うつ状態や不安の強い患者、自発性の低下した患者、入院生活への不適應、長期入院に伴う拘禁反応、攻撃性の高まっている患者などに対して実施し、効果が得られている。

・週間スケジュール

	月	火	水	木	金	(第 1.3.5) 土
8:30-12:00	リエゾン 業務	リエゾン 業務	外 来 業 務・リエ ゾ ン 業 務	リエゾン 業務	リ エ ゾ ン業務	リエゾン 業務 緩和ケア
13:00- 15:00	リエゾン 業務 ・緩和ケ ア	リエゾン 業務・動 物介在療 法(火 or 水曜日)	外 来 業 務・ 動 物 介 在 慮 法 (火 or 水)	リエゾン 業務 ・緩和ケ ア	緩 和 ケ ア チ ー ム回診・ がんリ ハビリ テーシ ョンカ ンファ レンス	
15:00- 17:00	カンファ レンス・症 例検討	リエゾン 業務・動 物介在療 法	外 来 業 務・リエ ゾ ン 業 務	クルズス	リ エ ゾ ン業務	

17:00- 18:00	医局会 (第2月 曜)					
18:00- 20:00	北里大学 東病院、産 業精神医 学勉強会 (1回/ 月)(任意)	北里大学 東病院、 大人の発 達障害研 究会(1 回/月) (任意)		北里大学 東病院、 症例検討 会参加		

・年間スケジュール

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会参加 日本老年精神学会参加(任意)
7月	東京精神医学会参加
8月	
9月	日本スポーツ精神医学会参加(任意)
10月	
11月	日本認知症学会参加(任意)
12月	

1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書作成

⑱埼玉県立精神医療センター

- ・施設名：埼玉県立精神医療センター
- ・施設形態：公立病院
- ・院長名：長尾真理子
- ・指導責任者氏名：田中朋子
- ・指導医人数：9人
- ・精神科病床数：183床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）：

疾患	外来患者数 （年間）	入院患者数 （年間）
F0：症状性を含む器質性精神障害	11	11
F1：精神作用物質使用による精神および行動の障害	457	236
F2：統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	166	202
F3：気分（感情）障害	71	49
F4：神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	102	28
F5：生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	10	6
F6：成人のパーソナリティおよび行動の障害	11	10
F7：精神遅滞（知的障害）	11	6
F8：心理的発達の障害	177	45

F9：小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	47	8
-------------------------------	----	---

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴など）

埼玉県立精神医療センターは、県内唯一の公立単科精神科病院として、いわゆるスーパー救急病棟2病棟（30床・50床）、依存症病棟（40床）、児童思春期病棟（30床、）医療観察法病棟（33床）の計183床を有し、地域医療機関と機能分担して高度専門医療を行っており、依存症治療研究部も設置している。

疾患としては特に、精神作用物質使用による精神および行動の障害（F1）、統合失調症（F2）、心理的発達障害（F8）、小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害（F9）が症例豊富である。

多職種チーム医療が基本であり、入院初期から退院後の生活を見据えた濃厚な対応（多職種による評価・検討、地域関係機関との連携等）を行い、早期の社会復帰を目指している。また、修正型電気けいれん療法、クロザピン、結核患者収容モデル事業による結核患者の治療も行っている。

スーパー救急病棟は、埼玉県精神科救急情報センターと密接な連携を取りながら夜間休日を中心に措置入院等を受け入れ、また地域の医療機関では処遇困難な患者の診療も行っている。

依存症病棟は、アルコール依存症と薬物依存症の治療を行っている、本邦でも数少ない病棟である。外来・依存症治療研究部と連携し、治療の動機付け・集団プログラム・疾病教育等、断酒断薬の継続のために様々なアプローチを行っている。

児童思春期病棟は県内唯一の病棟であり、院内学級も併設されている。外来も含め、教育・福祉等の各機関と連携を取りながら、個別指導・集団療法等をチームで行っている。

教育研究面においては、「教育・研究入門講座」を適宜開催している。

当センターは日頃より院内の連携が良好で、研修プログラムも充実しているため、専門分野に特化した研修・当院全体を網羅した組織横断的な研修等、専攻医のニーズに合わせた研修を行うことが可能である。

・週間スケジュール（週間計画に記載のない時間は、病棟・外来業務）

1.スーパー救急病棟を中心とした基本的研修

	月	火	水	木	金	土
8:30-9:00	病棟申し送り	病棟申し送り	病棟申し送り	病棟申し送り	病棟申し送り	

9:00-10:00	病棟科長/医 長 保護室 回診	病棟科長/ 医長 保護 室回診	病棟科長/ 医長 保護 室回診	病棟科長/ 医長 保護 室回診	病棟科長/ 医長 保護 室回診	
9:30-11:30	電気けいれ ん療法		電気けいれ ん療法		電気けいれ ん療法	
10:00- 12:00				薬物療法 CC *1		
12:30- 13:00		病棟運営会 議			隔週) 医局 勉強会	
13:30- 14:00	病棟カンフ ァレンス	病棟カンフ ァレンス	病棟カンフ ァレンス	病棟カンフ ァレンス	病棟カンフ ァレンス	
16:00-					新患 CC *2	
17:00-	医局会					

*1:スーパー救急病棟入院患者の薬物療法の評価

*2:主にスーパー救急病棟に新規入院した患者のCC

2.依存症病棟を中心とした研修

	月	火	水	木	金	土
8:30-9:00	病棟申し送 り	病棟申し送 り	病棟申し送 り	病棟申し送 り	病棟申し送 り	
9:00-9:15	病棟患者ミ ーティング	病棟患者ミ ーティング	病棟患者ミ ーティング	病棟患者ミ ーティング	病棟患者ミ ーティング	
9:15-12:00	酒歴・薬歴発 表 または スモールグ ループミー ティング	第1・3・5) 病棟 LIFE *1 外来アルコ ールミーテ	入院患者の ための勉強 会	作業療法 第2) ウォ ーキング 外来アルコ ールミーテ	再飲酒・再 使用予防ト レーニング (CST)	

		ィング		ィング		
12:30- 13:30	病棟運営会議				隔週) 医局勉強会	
13:30- 14:00	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	
14:00- 17:00	第2) 断酒会紹介 第4) AA 紹介	第1・3) 断酒会参加 第1・3・4) アルコール家族教室 第2) レクリエーション、外来アルコールミーティング	薬物家族教室 外来 LIFE 第2) ダルクメッセージ 第3) 栄養指導 第3・4) マックメッセージ	レクリエーション 第2) ウォーキング反省会 依存症 CC *2		
17:00-	医局会					
19:00- 20:00		NA メッセージ				

*1:薬物依存症再発防止プログラム

*2:主に依存症病棟に入院した患者の CC、動機付け面接ロールプレイ

3.児童・思春期病棟を中心とした研修

	月	火	水	木	金	土
8:30-9:00	病棟申し送り	病棟申し送り	病棟申し送り	病棟申し送り	病棟申し送り	

9:00-10:30						
10:30- 11:30					家族教室	
12:30- 13:00					隔週) 医局 勉強会	
13:00- 13:30	病棟運営会 議					
13:30- 14:00	病棟カンフ ァレンス	病棟カンフ ァレンス	病棟カンフ ァレンス	病棟カンフ ァレンス	病棟カンフ ァレンス	
14:00- 17:00	男女別グル ープ活動 農作業	不登校児の 外来グルー プ活動 隔週) 患児 コミュニケ ーションミ ーティング	病棟ミーテ ィング(集 団精神療 法)	OT レクリ エーション	SST グループ活 動「鉄道友 の会」 学校病棟 CC *1	
17:00-	医局会					

*1:児童思春期病棟に入院中で院内学級に登校している自動のCC

・週間スケジュール

4月	オリエンテーション
5月	埼玉県精神神経科医会学術講演会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	埼玉精神医学懇話会参加
8月	埼玉子どものころ臨床研修会参加
9月	埼玉県精神神経科医会学術講演会参加

10月	
11月	
12月	
1月	埼玉精神医学懇話会参加
2月	全国児童青年精神科医療施設協議会参加 埼玉県精神神経科医会学術講演会参加
3月	総括の評価